

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900791		
法人名	(有) 西日本在宅介護センター		
事業所名	グループホーム 見立		
所在地	田川市大字弓削田3251番地		
自己評価作成日	平成27年6月17日	評価結果確定日	平成27年7月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成27年7月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜間二人体制で利用者の方又は、家族の方に少しでも不安を取り除き、安心していただけるように心がけています。又、看護師勤務があり、医療的な相談、主治医との連携も良く、安心していただけます。職員は20代~70代まで幅が広く家庭的な職場です。いつも笑い声が絶えません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所14年目となったグループホーム見立は、入居者の重度化もあり、理念を具現化するために具体的な方針の作成を検討している。1日3回の申し送りを活用して、入居者の心身や思いを重視した支援を話し合い、系列デイサービスでの入浴を支援したり、週1回昼食を自宅で家族と一緒に摂れるように支援している。そして、運営者はゆっくりと食事や入浴してほしいと、入浴担当を設けたり、自ら食事介助に関わることもある。開設以来の協力医から携帯番号や不在時の連絡方法を教えてもらうなどの良好な連携や、夜間は2名体制できめ細やかな排泄の援助や口腔ケアに努める中、昨年1名の入居者が静かに逝去された。また、入居者が楽しみにしている神幸祭や獅子舞の来訪が継続し、避難訓練への協力を申し出る運営推進委員もあり、地域からも頼りになるホームとして期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム見立 (1ユニット)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少しずつですが頑張っています。	玄関ホール正面に理念を掲示しているが、開所14年目となり、入居者の重度化もあり、心身状況に配慮しながら、理念を実践する方針の作成を検討する予定である。職員は、声をかけた入居者のニコツとする笑顔に、理念の実践を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として日常的に交流する事は難しいが、行事などは交流している。	近隣のデイサービスの行事に参加したり、恒例の神幸祭や獅子舞の来訪を楽しみにしている。運営者が区長を務め、地域に貢献しているため、ホームの知名度も高い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して地域代表の方にアドバイスいただきながら、前向きに努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表委員と話し合いサービスの向上に少しでも繋げていけるように努力していきたいと思えます。	適切なメンバーで定期的開催され、議事録を整備している。ホームの現状や入居者の身体状況、ヒヤリハットや困り事等を報告している。参加者から避難訓練を繰り返し実施することの重要性や避難訓練の協力の申し出があったり、休耕田を活用したひまわりの花見の情報をもらったりしている。	中立で透明性のある運営や地域に開かれたサービスを提供するとの運営推進会議の目的に鑑み、玄関などに会議抄録等の公表をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者やホーム内の改修などアドバイスを頂いています。	地域包括支援センターに居室の空情報を提供したり、地域のサービス事業所協議会に参加している。会議に参加している運営者や管理者間で、職員の雇用等について情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は徘徊される入居者が居られ玄関は施錠していたが、現在徘徊される方は居られず、玄関の鍵は施錠せず。ベツ柵など、家族の了解を得て転倒防止の為四方の利用も有ったが現在中止している。職員との話し合いで少しずつ努力していきます。	外部の身体拘束に関する研修に参加し、伝達講習をしている。以前、隣接する理髪店の店主から、入居者が無断外出していると知らせていただいたこともあり、今後も理解や協力をお願いする予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待防止を心がけ学ぶ機会を持ち虐待防止に努力します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性のある関係者との活用できるように支援する努力をしている。	現在まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。責任を持って利用料を支払うと話す親族もある。	今後、さらに多様な家族構成が予測されることから、適切な情報を提供するために、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレット等を整備し、入居時に説明をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得・理解して頂けるように十分な説明を図る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望・意見などを運営に反映させている。	近隣からの入居者宅に利用料の明細を持参で訪問し、日頃の状況を伝えているが、「外に連れて行ってほしい」などの率直な意見を伺える機会となっている。家族の要望に配慮し、外出やレクリエーションに取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、職員全体で話し合い反映させている。	半日勤務の職員もあり、1日3回の申し送りを活用して意見交換をしている。通路の手すり設置や車イス購入の希望などが提案され、必要に応じて法人会議で検討する体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間は個々に合わせて面談し条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	能力あれば年齢制限なし。又、勉強会など希望があれば優先させる。	職員のロコミや紹介で入職し、非常勤の職員が多い。休憩室や休憩時間を確保し、メリハリのある就業を支援している。運営者から「元気で頑張ってもらいたい」と70歳以上の職員も就業し、介護福祉士国家試験受験料の補填やお祝い金支給で、資格取得を支援したり、外部研修参加を推奨している。今後は、他の事業所との人事交流も検討予定である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は、職員全員で心がけている。	夜間支援体制加算を申請し、夜間帯の手厚い支援に取り組んでいる。運営者は、ゆっくりと食事をしたり、ゆっくりと入浴してほしいと自ら食事介助をしたり、入浴担当者を設けている。	介護従事者は、年1回の人権学習が必須であることから、行政主催の人権研修参加や内部研修の充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員法人内外で研修を受けさせ又、力量を把握して、働きながらのトレーニングを実施。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の交流を行い、職員の向上に取り組む努力をする。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション作りに努力し少しでも不安を取り除くよう努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で家族が困っている事に耳を傾け少しでも安心して頂けるように努力し、出来る範囲以内要望に答えられるように努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の必要性がどの程度か見極め、家族と入居者の納得いくまで話し合うように努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは協力して頂き日常生活の中で共有できるように努める。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を壊さないように努力して共に支援して連携を保つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力し、支援していきたい。	近隣からの入居者が週1回自宅で昼食を摂れるように支援したり、2ヶ月毎に馴染みの美容院に通う入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室を利用して日中や夕食後のレクリエーションなどで入居者同士楽しみながら触れ合う様努力する。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り努力して活きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も入居者の要望を聞き、実行出来る事ははさせて頂く。無理難題の時は時間をかけて話し合う。	基本情報やアセスメントシートを整備し、入居者の思いや意向の把握に努めている。把握した情報は朝や昼の申し送り時に伝達し、情報の共有に努めている。「時々は家に帰りたい」との思いに応じて、週に1度、自宅で家族と昼食できるように支援している。	職員を担当制にしたり、得た情報をアセスメントシートに追記するなどの工夫で、全職員が情報を共有し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員でこれまでの把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の流れを把握して、毎日違った行動をされる方もいるので、その日その日を把握するよう努力していくよう努める。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の必要性のある関係者見極め家族、本人が納得いくように話し合い又、意見やアイディアなど反映し、介護計画を作成している。	ハルンバックを利用している入居者に、系列のデイサービスでの入浴を支援したり、週1回家族と昼食を摂ったり、夕食後のレクリエーションでは読経で鍛えた声で黒田節を披露できるように支援している。定期的なアセスメントやモニタリングが実施され、現状に即した計画作成に努めている。	実践されている現状に即したケアをモニタリングし、さらにより良く暮らすための介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時を利用して情報を共有し、活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は出来る限り支援に努める。又、こちらから支援に対して要望は無いか聞き出すよう気配りする。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望より取り入れ、適切な医療を受けてもらう。	開設以来の協力医から、携帯番号や不在時の連絡方法を教えてもらうなど、良好な連携がとれている。医療機関受診は職員が同行し、日頃の状況を報告したり、受診状況は家族に随時報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週往診あり。又、異常があれば主治医との連携をとる。職員の看護師が看護にあたる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に出かけ情報交換を常に行う。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の一員として日常的に交流する事は難しいが、行事などは交流している。医療関係と連携をとり、事業所で出来る範囲内十分に家族などに説明して方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針や意向確認書を整備している。昨今、1名の看取りを支援しているが、夜勤帯に静かに逝去されたと管理者は話している。夜間は2名体制で、きめ細やかな排泄の援助や口腔ケアに努めている。	高齢期の心身の変化は予測できないことも多いため、整備している方針や意向確認書を入居時に説明されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来るだけ研修を受けるようにしているが、研修にいけない職員の為に、事業所で勉強会を実施する。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災避難訓練・通報訓練など実施。消防署や地域の消防団と実施。	前回の避難訓練では、消火活動を忘れたことや火災通報装置の取り扱いが課題となった。ホームの軒下にホースの格納庫が設置され、給水栓も隣接するため、消火が即実施できる環境にある。公民館長からは、協力の申し出も受けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況を把握して、人格を尊重し、職員全体が対応出来るように努める。	各居室の入口は入居者の「淋しい」との要望で、開けている居室がほとんどである。管理者は、入居者の心身の状況や生活歴、職歴に応じた声かけや対応を日頃から指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることはして頂き又、本人の要望があれば優先する。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は入居者のペースにあわせ入居者がどのように暮らしたいか要望を聞き、希望どうりに過ごして頂く。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせた衣類・美容など気配る。自立出来ない入居者は職員がその人にあつた身だしなみに支援する。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞き調理する。	職員は食事を介助したり、皿を置き換えたり、良く噛んで飲み込むように声をかけている。本人の希望で居室で食事する入居者もある。運営者のゆっくりと食事をしてほしいとの意向を重視し、各入居者の状況に応じた食形や介助に努めたいと管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を把握して、摂取量のバランスが足りないときは、その人にあわせ摂取して頂く。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前に口腔ケア実施し、そのとき口腔内の観察する。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方でもトイレ誘導は出来る限り実施して、排泄の気配りは欠かさない。排泄に失敗しても傷つかない支援をする。	排泄が自立している入居者もあるが、ベット傍にポータブルトイレがある居室が多い。食前や食後、その後は2時間毎の誘導で、トイレでの排泄を基本にしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り食事・水分摂取・腹部保温湿布・マッサージなど試みる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週4日その間に入浴して頂く。要望は聞き変更する。	ゆっくりと入浴してほしいと入浴担当者を設けたり、系列のデイサービスの浴槽を活用したりしている。脱衣時に大声や奇声を上げる入居者もあり、状況に応じた声かけや支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせ休息や安眠を心がけながら支援する。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者の服薬を把握して症状の変化を確認し、チームワークをとりながら努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換などの気配りは心がけるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のデイサービスと花見など参加。毎週金曜日自宅で昼食を取られています。	春・秋は花見を予定したり、自宅で昼食ができるように支援したり、馴染みの美容院に行けるように支援している。廊下のしだれ梅や柿の実がなる風景が、楽しみの一つになっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って買い物に行く利用者はいません。お金を使う支援は難題。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしていきたいが殆ど要望が無い。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付け行事を利用者に伝える。食事の時間は音楽をかける。	民家の玄関をそのままに、障子や襖で仕切られた畳の間など、改造型の良さを残した居室もある。中庭に出れるようにスロープも設置され、四季折々の風景を楽しむことができる。共用空間には机や椅子、ソファが設置され、昼食後テレビを観ながら寛ぐ入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で利用者同士、テレビ鑑賞・おやつ・レクリエーションを楽しんで頂く。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が持っていた物・家族が持って来た物、写真、生活用品など。	畳敷きの部屋やフローリングの居室で全員がベッドを使用している。テレビや椅子等が自宅から持ち込まれ、引き出しに入っている品物の名前が書かれた筆筒が置かれている居室もある。入居者の状況に配慮した居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前に入居者の写真を張っている。食堂や談話室などすぐわかるように、オープンにしている。		